

【現行NAPの課題】

- ギャップ分析がなされなかった
➔ 施策に多くの「穴」が
実効性を目指した時に「穴」は見える
- 「理解促進と意識向上」（優先分野）の先の政策が見えない
➔ 実際に人権尊重ができるようになるための「能力構築」が今後は重要
- ステークホルダーとのエンゲージメントが不十分なプロセス



「ビジネスと人権」に関する行動計画 (2020-2025)

NAPの87施策

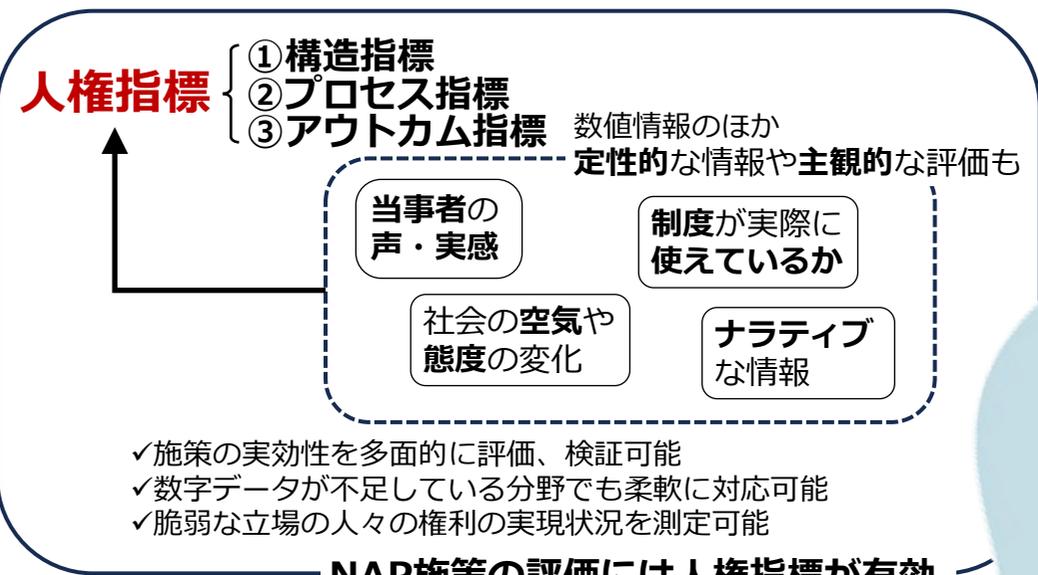
現状はほとんどが
アウトプット指標

【政策の課題／政府組織の課題】

- 人権政策は政策領域ごとの「点」で断片化してきた
➔ 横串で「線」へ、当事者視点で「面」へ、が次期NAPの大きな課題
 - 年度ごとの予算システムのためアウトプット指標になりがち
 - 頻繁な人事異動がネックに

➔ マルチステークホルダーによるフォーラムの制度化で克服へ

重要 ● ステークホルダーとの継続的な対話 ● 政策の一貫性 ● 指標を軸にした改善 ● SDGs自発的国家レビュー (VNR) も踏まえて



必読 「3年目意見交換のためのレビューに関するステークホルダー報告書」

effectiveness
つまり...
施策の実効性は？

アウトプット

アウトカム

インパクト

効果？

アウトプット指標
(レシピ通りか?)

アウトカム指標
(美味しいか?)

効果を測るためには
アウトカム指標が必要

- 効果のタイムラグあり (とくに規範や意識)
- 他の要因の影響あり

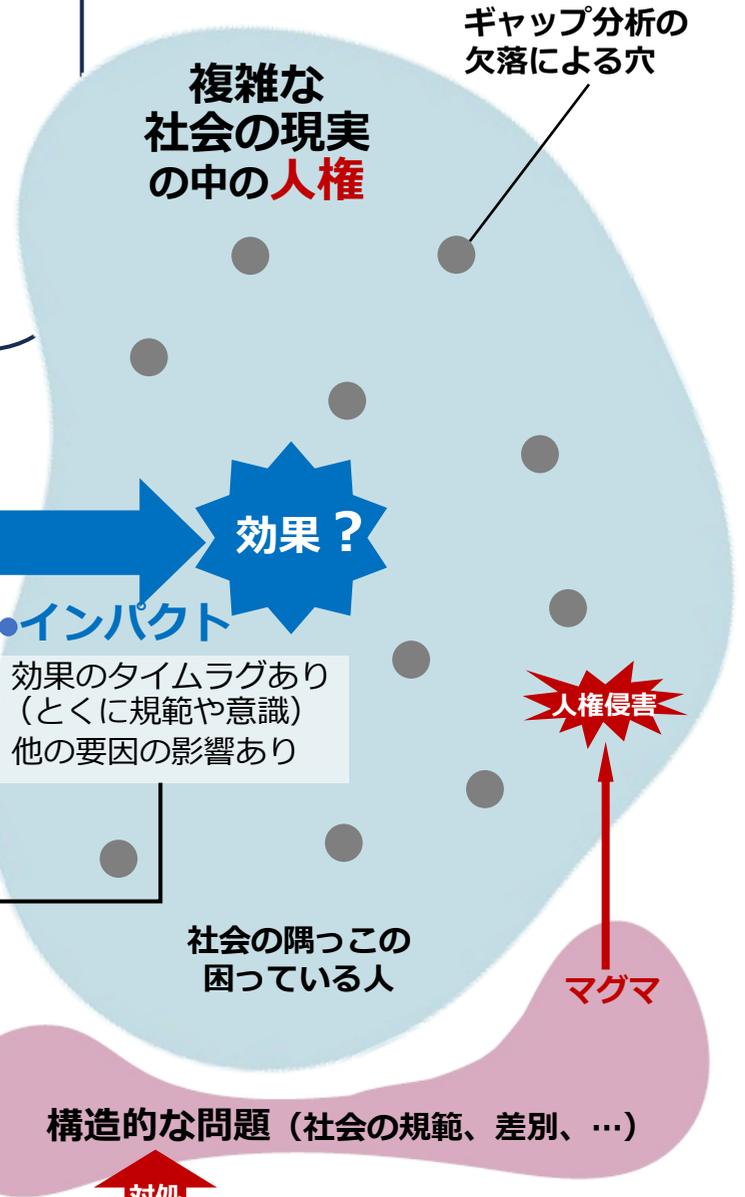
料理に例えると、レシピ通りに政府は実施するが、本当に美味しいか (効果があるか、人権の実現につながっているか) が重要。

★アウトカム指標の課題

- 時間スパンの取り方
- ロジックモデルのつながりの明確化

★救済でも効果 (実際に救済に結びついたか) が重要

- 案件の処理件数だけでなく案件の種類や手続きの適切さも測るべき



国内人権機関、差別禁止法など = 国家の人権保護義務
はやはり重要